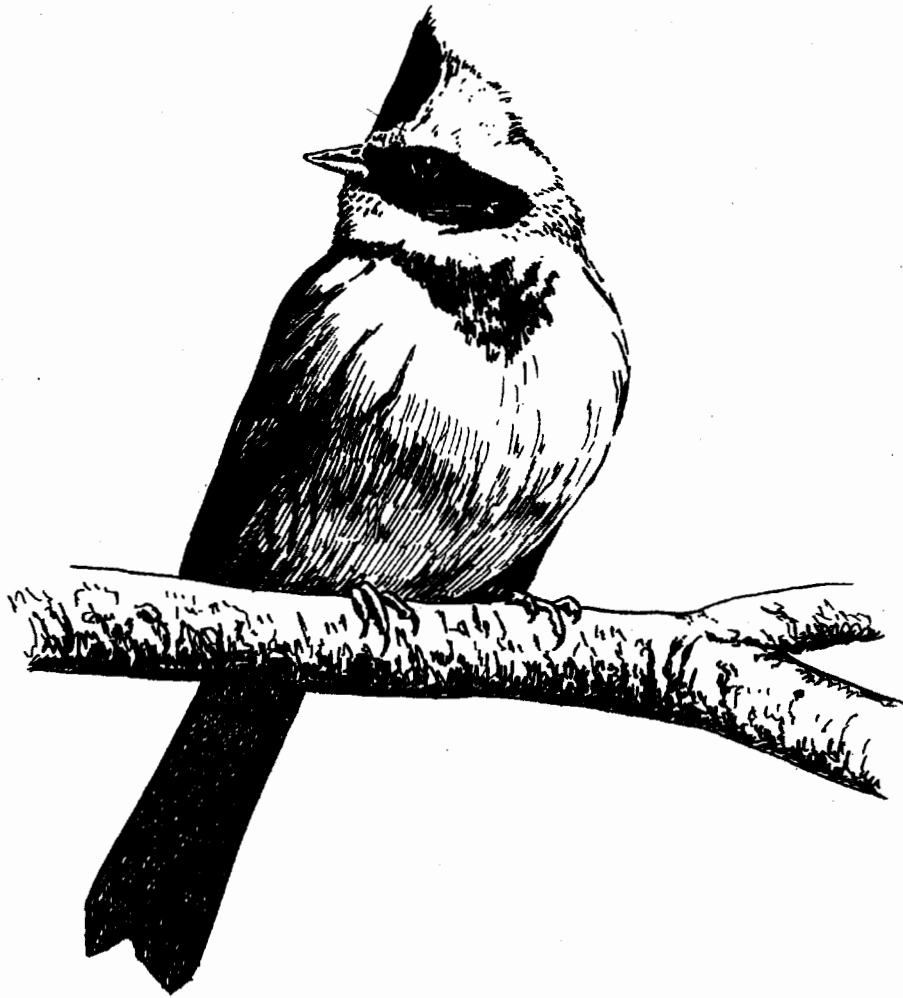


いさぎ

第34号



2002年 2月

(財) 日本野鳥の会 三重県支部

● 鳥たちの周囲 ● 加藤 光広

フォトジャーナリストの知人が、取材のため太平洋に浮かぶさんご礁の島マーシャル諸島共和国へ出かけたときのお話を伺った。島が沈むというのだ。やしの木が浸水してきた海水によって朽ちて倒れてしまっている写真を見せてもらった。それは地球温暖化によって海面が上昇し、平均海拔2mのこの島では海面上昇の影響をもろに受けて海岸侵食が進んでいるからとのこと。そう言えば最近夏に鳴く蟬のうちアブラゼミよりもクマゼミの方が圧倒的に多いように感じられる。南方系の蟬が北上しているに違いない。一方干潟に飛来する冬鳥の数が減少しているとの報告もある。

地球温暖化の対策の一つとして電源開発についてクリーンエネルギーとしての風力発電が期待されている。ヨーロッパなどでは日本よりはるかに進んでいるようだ。風力発電の専門家からの今年の年賀状には、景気低迷といわれる昨今においてわが国の風力発電産業界は右肩上がりの景気上昇を続けているとのことだ。風車が増えると鳥たちにとってどうなるのか、そのことへの対策がなされていけばいいのだが。

人殺しという名の戦争について考えて

みたい。

1970年代ベトナム戦争では多数の枯葉剤が投下された。それを扱った米兵には今もその後遺症で苦しんでいる人が多いという。

当時鳥に関心を持ち始めた頃で、夏鳥のサンコウチョウが減ったのはベトナム戦争の故だと聞いたことある。アフガニスタンでのテロ報復爆撃では、かの地の人も鳥も草も虫も生きとし生けるものの命が奪われているのだ。一方1950年から3年間朝鮮半島での戦争の結果北緯38度線を境に南北が離散しているが、38度線周囲の非武装地帯では現在人の立ち入りが禁止されているため自然豊かな地域となつて、鳥たちの楽園となっているらしい。国破れて山河あり。

野鳥の会では霞3号線道路が高松海岸沖を通す計画に反対しての提言を当局に申し入れてきた。昨年地元の人を中心となつて「高松海岸を守る会」を立ち上げた。伊勢湾にある数少ない干潟の一つのこの海岸に、いつまでも鳥、花、魚、貝を含む自然がそのまま残されるのを願わずにいられない。

私たちは、鳥たちが私たちの周りにイエローカードが出すようなことをしていないか。

目次

今月の表紙 絵：田中 豊成

- 巻頭エッセイ・今月の表紙・・・1
- 特集
我が家の「ドゥワッチング」・・・ 2
- 事務局だより・・・ 5
- 会員のページ・・・ 9
- 探鳥会報告・・・ 12
- 編集後記・その他・・・ 14

今月の表紙
ミヤマホオジロ

主に西日本に渡来するホオジロ科の野鳥です。伊賀地方では、冬期に小さな群れで若干のミヤマホオジロが越冬します。他の三重県下ではどうなんでしょう。山地の雑木林など明るい林やへりで見られます。冠羽が目立ち、オスでは眉やのどが鮮やかな黄色が印象的なきれいな野鳥です。又、胸の黒い三角形もこの種の特徴です。ミヤマホオジロを見ると、私は冬を感じます。

田中 豊成（名張市）

◆ 自分たちの身近な鳥の様々な生態 ◆

今回の特集は、我家の近くで、庭先で遊ぶ鳥・バードテーブルの鳥・いつもの通り道で見る鳥など各々のバードウォッチングに対してのコメントをいただきました。

<我が家の庭>

職を引いたので、大阪のマンションと交換条件で7年前、今の団地に移り住んだ。庭に野鳥が来るのが夢だった。

早速、植木屋さんに「狭い庭だが野鳥が来る林にして欲しい。一切お任せします」これが私の提示条件だった。植木屋さんは鶉の木、榊、カイド、山茱萸、万両など20種余りの林を造り、縁には竜の鬚を敷き詰めた。

池は後から、ハッポースチロールの空箱で小鳥が水浴できるようにした。漸く林も落ち着いてきたころ、小鳥の好物を吊り下げた。巣箱も用意した。餌台の蜂蜜水にはメジロが用心深く来たが、ヒヨドリの一声に退散する。野鳥にも厳しい序列がある。訪れてくれるのは、四十雀、コゲラ、山雀、セグロセキレイ、ジョウビタキ、春先には、鶯がチャ、チャと山茶花と槇垣の暗みを渡ってくる。毎年定期便となった。

あまりにも、餌をつるすのでヒヨドリはもとより、鳩まで争って飛来するようになり、近所迷惑と家内から叱られています。

それから、落ち葉が隣近所に散乱するので、これまた叱られる種です。先般、林をばっさり剪定したら、脂身など吊るした針金が木の枝に食い込んでいた。可愛そうなことをした。驚いたことに植えもしない木がヒヨの糞からでしょう。南天が大きく自生している。自然の摂理か、7年経つと変わるものだ。

転居当時は、ヒバリが空き地に、裏山にはコジュケイ、不如帰が喧しかったが、隣接する団地造成で自然が失われると共に、野鳥もめっきり減った。それから、昨年、燕が玄関の外灯上に営巣し、6羽が巣立った。今年は安定して営巣できるよう、外灯に覆いを板で作って待ったが、加工が嫌われたのか終に来てくれなかった。そのままにしておけば良かったのにと後悔している。

最近隣近所もご理解いただき、また家内も、私よりよく、小鳥の世話をするようになったが残念なことに、宅地開発が進み年々来る鳥の種類も数も寂しくなった。

[鈴鹿市 坂口 守]

<北よりの使者“ジョウケン”>

ヒッヒッヒッヒッ…。文字にすれば怪談話でも始まるのかと思われようが…。胸から腰にかけてのあの美しいオレンジ色の北からの渡り鳥に魅せられた人は、この第一声に「来た！来た！」という感動で心がうち震えることを知っている。

私が野鳥の虜になったのは、実はこの鳥が庭に来てからである。何と美しい鳥か！この世のものとは思えぬ素晴らしさ、その野生の躍動感！そして、人なつっこさ。その名はジョウビタキ。私は親しみをこめて「ジョウケン」と呼んでいる。

伊勢市内から度会町に引っ越してきて2年目の秋、1996年10月30日、庭に今まで見たことのないオレンジ色の美しい紋付模様の小さな野鳥が来訪した。2階のアンテナで盛んにヒッヒッヒッと鳴いている。これが「なわばり宣言」であることをあとで知った。私宅の庭は宮川に向けて開けており、近くに畑地があり、この辺が彼の生活エリアに合ったのだろう。この年以來、4回、飛来している。1996年10月から今年度までの飛来から帰還の記録は次のようである。

△ 96年10月30日～97年3月24日

△ 97年秋…来ない

△ 98年10月30日～99年3月31日

△ 99年10月28日～00年3月31日

△ 00年10月30日 来たが別地にゆく

△01年11月11日 飛来（北国の温暖化の影響か？飛来やや遅い）

彼は近くの畑の白菜やキャベツについた青虫を食べたり、バッタなども食している。ついでにミル・ワームもデザートにやる。マイカーのバックミラーはいつもフンだらけ。可愛いのでとても怒れない。「天使のフンだ」と、私はむしろ嬉々として運転をしている。数ある越冬地の中から私庭を選んでくれたことに感謝し、天からの使者だと家族の者は毎日、目を細めてみつめている。小春日和の休日は、昼食を庭でいただく。いつの間にかジョウクンは自分のエサ台で私たちと食事を共にする。でも、野生を失わないよう、人間に近すぎず、遠すぎずの関係を保つようにしている。本来は、土で虫をとらせたいが、野良猫も多いので、高い木などにエサをつりあげたりしている。しかし、春の旅立ちの時、チャンと北へ渡ってゆけるのだろうか。野生を奪ってしまったのではないかと不安でもある。野生を大事にしつつ、自然の中で、北からの使者と冬の日々を楽しめる幸せを味わっている。この上ない癒しの日々である。

ちなみに、7年前から夏にはツバメが巣を作ってヒナをかえしている。夏は夏で、カラスの襲撃からツバメ一家を守るために、玄関にカカシを立てたり、カラスの突撃防止の特性杭を雨樋にぶら下げたりで、異様な風景となる。けれども、月日満ちて、ヒナの巣立ちの瞬間を見届けることで一切の苦労は消え去る。

夏も冬も、野鳥の息づかいを身近に感じることができることは、この上ない至福のときである。

地球の温暖化などによる環境の変化は、野鳥の生息地域や渡りのサイクルを狂わせるだろう。すると、繁殖条件も変化し、適応できない個体は滅んでいくのだろうか。

来年も、「必ず、やっておいでヨ！」という祈りは、とりもなおさず、自らが野鳥に優しい環境の保全に力を注ぐことによるのみ許されることではないかと心を引き締めている。

おまけになるが…。正月3日、ジョウクンが扉の開いていた玄関から室内に入っ

たのか、娘の部屋に入って着物にフンを落としたり。シミ抜き代10,290円也。超高いフン代となった。娘も私もしばらく落ち込む。でも、考えてみれば、めったに授かることのできない北からの使者の落し物。

案外、フンだけに、幸「運」を運んでくれるかもしれないと、今は目を細めてジョウクンを見つめている。



[度会町 田中 伸一]

<キジバトの巣立ち>

庭師が入り、剪定の終わった裏庭のオニガシの木のテッペンに、突如キジバトの巣が出現した。中には巣立ち真近と思われる子鳩が2羽。庭師の棟梁は慣れたもので、その2羽の頭を優しく撫でてやったという。しかし、これまで葉で隠れていた巣はすっかり露出してしまい、警戒したのか親鳥の姿も見えない。カラスなどの天敵に襲われたりしないだろうか、雨風が直接当たって寒かろうに...などという心配をよそに、巣の中におとなしくちょこんと揃って座っている姿はなんとも微笑ましい。

その日から彼等は我が家のアイドルとなった。

それから、朝起きて勝手口のドアを開けると、まっ先に巣を見上げ、子鳩の様子を

特集：我家のバードウォッチング

それから、朝起きて勝手口のドアを開けると、まっ先に巣を見上げ、子鳩の様子をうかがうのが私たち家族の日課となった。餌をもらっているのかと心配していたが、4、5日して親鳥がエサを与えている姿を確認することが出来、ほっとひと安心。

その後2は羽は順調に成長し、巣から出て枝に止まったり、翼をバタバタ動かしたりするようになった。夜になると屋根に飛び移り、角の暖かい場所で朝まで過ごしているようである。

木の根元に屑米を撒いてやると、降りて来てさかんに啄んでいる。おなか一杯になると、低木のアオキの枝に寄り添うように止まり、私達の目を楽しませてくれた。近くで見ると、翼の模様こそ成鳥と変わらないが、全体に一回り小さく、胸のあたりがふっくらと柔らかそうな羽毛で覆われている。怖がる様子もなく、つぶらな瞳でじっとこちらを見つめている様子がとても可愛らしく、私たちは外に出る度に飽きもせず見惚れた。

2週間くらいたったある日の朝、一羽の姿が突然見えなくなった。

続いてもう一羽の姿も...

その日、子鳩はとうとう一度も姿を現さなかった。

そして次の日も...

無事巣立った事に安堵の念を抱きながらも、「天使たち」のいた日々が脳裏を駆けめぐり、一抹の寂しさを覚えた。

お互いを暖め合うようにぴったり寄り添っていた姿が目には焼きついて離れない。

裏庭に出て、オニガシの木を見上げてみた。からっぽになった巣の上で、枯れ枝にからまった小さい羽毛が、いつまでも風に揺れていた。

[松阪市 宇平恵子]

<庭に来る小鳥達>

冬季、我が家の庭に来る小鳥達は、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、ウグイス、そして、ヒヨドリ、スズメ。たまに、シジュウカラ、シロハラ。

目当ては、ピラカンサ、ネズミモチ、ク

ログネモチ等の実と餌台です。

1. ピラカンサ

ツグミ、ヒヨドリ、ジョウビタキ等が、メインのお客様で、歓迎されないのは、ムクドリ。何れもよく食べます。メジロは、小さい実は飲み込み、大きなのは齧ります。スズメと極たまにウグイスも、齧っているようです。でも、良く下に実を落とします。ジョウビタキも大きくて飲み込めない時は下に落としています。初めは大事な実を勿体無いと思いましたが、ツグミやジョウビタキが、木に実がなくなる頃には、きれいに食べてくれます。茶碗に付いたご飯粒を、残さず食べよと躰られた身には、とても愛しく思われます。

ある時、実がピッシリ付いた枝を折ってしまいました。それを餌台の止まり木に縛って置いたところ、数日して乾しブドウ状になった頃ジョウビタキが食べ始めました。多分、縮んで飲み込み易くなったのと甘さが増したからかな？それと、足場が良く実をモギリとる時に十分足が踏ん張れるからかもしれません。飛びながら実をとる時は、結構苦労しているようです。その為、地面に落ちた実も食べるのでしょう。

ウグイス、シジュウカラは、木の掃除をしてくれているようで大歓迎です。

寒い朝、目覚めた後、フトンの中でヌクヌクしている時に、ツグミのクェッ、クェッと言う声が聞きこえると何だか幸せな気持ちになります。また、ジョウビタキのカタカタいう音が聞こえると、ああ、餌を出さねば、と起床を促され、こんな目覚ましなら、まあ、良いか、といったところです。

この頃は、シロハラがあまり来てくれないので少し淋しいです。

2. ネズミモチ

小鳥達が落としていった種から芽生え大木になってしまいました。

黒い実は、結構評判よく、ヒヨドリ、ジョウビタキ、ツグミ、メジロ、スズメ、ムクドリ等が食べます。また、常緑の葉が隠れるのに良く、メジロやスズメは食事タイムが終わるとよくここに入り、羽繕いや休憩をしています。

冬中楽しませてくれる小鳥さんの為に、毎年、何回かピラカンサの刺に泣かされながらも、植木の手入れをしています。

[四日市市 濱中 勝彦]

※「支部活動のページ」は、事務局で担当・作成しています。

理事会つうしん

2001年度第3回理事会の主な内容

2001.12.2(日) 津市中央公民館にて 出席 16名

1. 報告事項

●事務局

- ①霞4号幹線調査検討委員会 第6回評価システム部会(2001年9月13日)に保護部より平井出席、意見表明
- ②11月25日「身近な自然を体験する県民デー」参加の件
「バードウォッチングとクリーン大作戦イン高松海岸」
「高松干潟を守ろう会」といっしょに開催70名を越える参加
- ③諫早干潟干拓問題の意見広告に協賛(一口5000円)
- ④第9次鳥獣保護事業計画について、木曾三川河口部の保護などを要望。
- ⑤三重県自然環境保全条例の改正について 11月13日自然環境審議会に支部長出席

●編集部

- ①支部報発送時の第3種郵便利用については部数の関係等で見送り
- ②しろちどり発行について 次回のしろちどりは2月を予定

2. 協議事項

●保護部

- ①木曾岬干拓地フォーラムについて 経過・日程等についての説明、本部からの補助金の件等
- ②木曾岬干拓整備事業環境影響評価方法書の意見書についての協議

●企画部

- ①来年度の探鳥会についての方針提示など
各地区で計画をまとめ次回の理事会までに来年度案を作成

●事務局

- ①木曾岬干拓フォーラムの予算について
- ②しろちどり発送について
- ③事務局の会員向け通信費予算枠の拡大についての承認。
- ④来年度の総会における野鳥講座について密猟対策勉強会を検討。
- ⑤「県立自然系博物館整備を求めるための運動」への協力について、嘆願書団体署名承認。
- ⑥会員数について。減少傾向にあるので対策を考えてはどうか。

3. その他連絡事項(支部に届いた書簡紹介)など

- ①木曾岬干拓地整備事業に係わる環境影響評価方法書の公開、意見募集について。
- ②密猟問題シンポジウム出席について。 ほか

南勢地区では、2001年度、三重県の「宮川ルネッサンス事業」の助成により宮川に生息する鳥類の委託調査を有志で行っています。

調査とはいっても、探鳥会形式をとっていますので、初心者をはじめどなたでも参加していただけます。

調査地および2月、3月の日程は次のとおりです。予定が変更になる場合がありますので、参加希望の方は、必ず前日までに電話で連絡をお願いします。

調査地1	宮川上流	宮川村	桧原	2月22日(金)	3月22日(金)
調査地2	宮川中流	度会町	棚橋	2月23日(土)	3月30日(土)
調査地3	宮川河口	伊勢市	豊浜町	2月17日(日)	3月17日(土)

申し込み・問い合わせ先～林 淳子

※いずれも午前中の調査です。

南勢地区より
探鳥会のお知らせ



「木曾岬干拓フォーラム・自然と未来を考える」

が開催されました！！

前号でご紹介したとおり、昨年12月16日（日）午後、三重県支部および愛知県野鳥保護連絡協議会主催による「木曾岬干拓フォーラム」が開催されました。はじめに三重県から総合企画局の担当者にご出席いただいて木曾岬干拓地の利用計画等の説明を受け、続いて講師の茂田良光氏（山階鳥類研究所）からは「シギ・チドリの渡りと保護」について、森井豊久氏（名古屋鳥類調査会代表）からは「木曾岬に集まる猛禽類」についての講演をお聞きました。会員初め、70名余の参加者の皆さんはみな熱心に耳を傾けていました。



活発な意見が交わされた木曾岬干拓地フォーラム＝長島町中央公民館で

「食物連鎖の観点から、鳥だけでなくすべての生物を調査する必要がある」と提言した。

三重、愛知県県境の木曾岬干拓地の自然保護を考えるフォーラムが16日、長島町中央公民館で開催された。

干拓地を自然復元のモデルにするよう要望している、日本野鳥の会三重県支部と愛知県野鳥保護連絡協議会が主催し、約七十人が参加した。三重県総合企画局の担当者が、野外体験広場や運動広場といった、当面の利用計画について説明。山階（やましな）鳥類研究所標識研究室（千葉県我孫子市）の茂田良光さんは、日本で観察されるシギ、チドリ類が、生息地の環境悪化で急減しているという調査結果を報告した。名古屋鳥類調査会の森井豊久代表は、環境省のレッドデータブックで絶滅危惧2類に指定されているチュウヒをはじめ、木曾岬干拓地に集まる猛禽類をスライドで紹介した。最後の意見交換で、日本野鳥の会の杉浦邦彦三重県支部長は「食物連鎖の観点から、鳥だけでなくすべての生物を調査する必要がある」と提言した。

木曾岬干拓地の自然保護考える

長島でフォーラム、70人参加

2001年12月17日付中日新聞より

●木曾岬干拓地基礎知識

木曾岬干拓地は、三重県と愛知県の県境に位置する木曾川の河口部を、昭和40年代に干拓・干陸化して農業用地に供する目的で造成された土地です。その後、産業構造の変化により、農業用地としての必要性が薄れ、また県境問題が解決しなかったこともあって、30年あまりの間、放置された状態が続きました。その間、かつての干潟はアシなどが繁る湿性草原となり、人の立ち入りが制限されていたため、環境庁のレッドデータブックで絶滅危惧種とされるチュウヒなどの繁殖がみられる2次の自然となり、あらたな生態系が形作られています。

最近になってようやく県境問題の決着をみたことから、三重県は平成13年、干拓地全体の75パーセントにあたる335.2ヘクタールを国から買いうけ、現在、本格的な整備計画をすすめています。その計画の内容は、主にスポーツ公園やキャンプ場、自然体験広場のほか、建設残土のストックヤードといったものになっています。（次ページ資料参照）

干拓地は名古屋都市圏に近く、現在整備が進められている第二名神高速道路や、その他の道路計画が完成すれば将来的に大きな利用価値が見込まれることから、当面、大掛かりな造成工事を必要としないこのような暫定的利用計画を策定したということです。

これはつまり、将来の都市化が前提となっている利用計画ということです。

木曾岬干拓地はもともと広大な干潟であり、伊勢湾の最奥部に位置する、いわば伊勢湾全体の最大の浄化装置だったと言えます。当然ながら、渡り鳥の日本最大規模の中継地でもあったことでしょう。干潟の価値が見直されてきた現在であれば、埋め立て工事自体に世論の大きな反発が巻き起こったに違いありません。

国民の税金で埋め立てられた干拓地は、今また、三重県民の税金で購われ、開発されようとしています。干拓地で新たに生まれている生態系にいかん配慮し、環境先進県をめざすとしている「三重の国づくり宣言」、「伊勢湾再生ビジョン」にうたわれている内容にふさわしい利用法を模索するか、県民全体で考えなければならないときがきています。

●三重県が提示している利用計画案 (三重県総合企画局資料より抜粋)

「木曾岬干拓地の土地利用について」

(1) 当面の土地利用

当面は平坦で広大な空間を生かし、現状の地盤高での利用を前提として、極力手を加えない形で県民の公共利用に対するニーズに応じて、暫定的な利用を図っていくことが現実的であることから、具体的には、自然に親しみながら余暇活動を行うことを目的とした野外体験広場や運動広場等を整備して、県民の利用に供していくこととしています。

(2) 将来の高度な都市的土地利用

将来における高度な都市的土地利用については、高速交通網の整備の進捗等時代の変化に適切に対応しつつ社会・経済ニーズや技術的諸課題についてさらに幅広い分野の専門家の意見を聴くとともに、公共的土地利用に関する県民ニーズ等を勘案しながら総合的、広域的に土地利用計画等の検討を進めます。

○施設整備のスケジュール

施設名	面積 : 単位 ha	供用開始予定年度
建設発生土ストックヤード	20.0	平成15年度
野外体験広場	125.1	
・わんぱく原っぱ	(63.1)	平成18年度
・冒険広場	(45.3)	平成21年度
・デイキャンプ場	(16.7)	平成19年度
農業体験広場	55.2	平成25年度
運動広場	61.7	
・各種競技ゾーン	(27.3)	平成25年度
・多目的スポーツゾーン	(34.4)	平成26年度
自然体験広場	59.9	平成28年度
その他(道路・水路等)	13.2	
計	335.2	(3,351,859.36 ㎡)

※面積欄の()内は内取

(参考)土地利用計画図・・・別添図面2

●三重県支部の考え方

支部では、昨年12月に支部長名で県に「木曾岬干拓地整備事業環境影響評価方法書に対する意見書」を提出しました。以下、その抜粋を掲載します。

「木曾岬干拓地整備事業環境影響評価方法書に対する意見書」(抄)

はじめに

木曾岬干拓地は、約30年前に「農用地」として干拓された土地であり、現在に至るまで人による立ち入りや利用が行われなまま広大な湿地草原となっている地域である。

かつて、この地域一帯は木曾三川や庄内川・新川・日光川などの河口部として広大な干潟が存在し、多くのハマグリなどの産地でもあった。

私たち三重県民と愛知県民は、この約30年間に干潟という貴重な自然環境を失い、その代わりに「木曾岬干拓地」という湿性草原を現在共有しているという事実常に立ち返り、未来への原点とせねばならない。

-----中略-----

(財)日本野鳥の会三重県支部は、従来から三重・愛知両県に対して木曾岬干拓地の自然の保護を要望してきたが、今回の「木曾岬干拓地整備事業」は失った広大な干潟の代わりに得た広大な湿性草原を、両県民のために、また未来の世代のために有効に生かす事業とは考えられない。

「方法書」の「土地利用計画図」に記された干拓地全面に渡る諸計画は全く不要不急のものばかりであり、周辺には十分に両県民の需要を満たす諸施設が存在する。

性急な本事業を推進することなく、木曾岬干拓地の現状調査を十分に行い、「人の立ち入りのない広大な面積を有する湿性草原」の正当な評価を行うべきである。

木曾岬干拓地において整備事業というようなことを実施するのであれば、干潟の復元実験や生態系を豊かにするための地形改変や森林造成などの事業を行うべきである。

以上



●支部活動の記録（9月～1月）

事務局まとめ

2001年

- 9. 4 南青山休猟区、尼ヶ岳休猟区に係る意見書の提出（事務局）
- 9. 12 霞4号幹線調査検討委員会において意見表明
- 10. 2 小俣小学校 総合的な学習への講師派遣
- 10. 12 三重県総合企画局 木曾岬干拓フォーラムへの講師依頼
- 10 支部報「しろちどり」33号発行
- 11. 6 事務局会議
- 11. 13 自然環境保全審議会 支部長出席
- 11. 16 度会郡第二部教育振興会 研修会へ講師派遣
- 11. 25 身近な自然を体験する県民デー「バードウォッチング&クリーン大作戦 in高松海岸」高松干潟を守ろう会と共催で実施
- 12. 2 2001年度第3回理事会
- 12. 5 県庁記者クラブへ「木曾岬干拓フォーラム」のチラシ配布
- 12. 8 第9回野鳥密猟問題シンポジウム in岐阜に保護部長参加
- 12. 12 第9次鳥獣保護事業計画策定検討委員会に保護部長出席
- 12. 15 木曾岬干拓地整備事業環境影響評価方法書に対する意見書の提出
- 12. 16 「木曾岬干拓フォーラム」開催

2002年

- 1. 7 自然系博物館をつくる会 第1回世話人会に副支部長出席
- 1. 9 事務局会議・発送作業
- 1. 12 久居市ウィークエンドクラブ 講師派遣
- 1. 15 ガン・カモ類一斉調査委託実施（研究部）

●これからの活動（2月～4月）

- 2. 3 シンポ・自然の博物館をつくろうに出席
- 2 支部報「しろちどり」34号発行
- 2 2001年度実施分県委託調査事業の報告書作成・提出
- 2 来年度の活動計画立案作業
- 3. 3 2001年度第4回理事会
- 3. シロチドリ保護活動（繁殖地の保護ほか）
- 4. 21 三重県支部総会開催

お知らせと訂正

◆県（港湾課）が、三重県の海岸整備についての意見を募集しています。

今後10年間に整備を行う海岸についての施設等の計画案が縦覧できますので、ぜひ、自然保護の観点から、会員のみなさんの意見を県に届けましょう。

意見募集期間は2月28日までです。整備計画案は県のホームページまたは各閲覧場所でご覧ください。なお、詳細は港湾課までお問い合わせください。

三重県港湾課 Tel 059-224-2690 fax 059-224-3117 e-mail kowan@pref.mie.jp

◆12月発送分「探鳥会のご案内」の内容に誤りがありました。

2月18日（日）の「揖斐川探鳥会」の日程は、2月17日（日）の誤りですので、参加予定の方はご注意願います。お詫びして訂正します。

狩猟解禁日ルポ

久住勝司

11月15日、今日は狩猟解禁日、午前6時光り輝く明けの明星に迎えられ、五主海岸に立つ。河口では既に網を入れ操業している舟、焚火を背に釣りをしている人、犬を連れ散歩している人、もう一日が始まっている。

日の出までまだ間がある薄明かりの中、オオソリハシシギ、ダイゼン、の姿がシルエットとなって目に写る。待つこと20分、日の出間近に黒い猟舟が現れた。4人が乗っている。カモたちが追い立てられる様に河口上流部へ移動して行く、しばらくして巡視艇が一隻、心強い味方を感じる。ここは銃猟禁止区域になっているが、海上では許されているらしい。カモ達にとっては、海からであろうと陸から撃たれようとおなじこと、人間の身勝手には付き合いきれないと思っていることだろう。こちらは巡視艇にまかせて、200mと離れていない五主池に向かう、ここは今年になって他のカモ類とともに、珍しくアメリカヒドリ、ミコアイサ、ハジロカイツブリに例年になく20羽を超える多くのオオバンが入って、3日前には、オオハクチョウが飛来して、楽しみにしていたところであり、毎年北帰行途上のズガモが千羽単位で休んでいく池でもある。こんな貴重な環境にある池で狩猟ができるなんて考えられない、全国にこんな所があるのだろうか。ここには既に警察官2人、町・マスコミ関係者と思われる5人が見守っていた。こちらにもハンター4人が日の出とともに一斉に射撃が始まった。(海上からもダッダー、と聞こえる)緊張する一瞬である。幸い、その場で撃ち落されたものは、目にしなかったが、帰途1km位はなれた池には、急所をはずれ傷つき苦しみ乍も逃げのびたが、ここで絶命したのであろう4羽のカモが浮き、朝日に照らされた血染めのカモが1羽うつろに泳いでいるのが哀れであった。

ハンターに撃たれ、その場で絶命した方が幸せであろうなんて思いたくないが、この様に何倍もの犠牲がある事も、みんなに知って欲しい。タカ類であれば、環境保護の

目的で開発を中止したり、ダム、道路工事などでも中断されるほどの配慮があるのに、カモ達にとってはどうして我々だけが!!という叫びが聴こえてきそう。タカとカモの命の重さの違いはなんだろうと思う。野鳥を守ることが、自然を守ることと信じている。

津神戸 里山の秋

大西幸枝

神戸城跡から一步踏み込んでいくと、全くの異空間のように木々に囲まれた世界が現れます。

そして秋晴れに恵まれ、トンボのあいさつを受けながら進む道は、むかごなどの多くの自然の恵みに囲まれて、おだやかな空間を創りだしています。

ホオジロ・アオジ・カシラダカ・ノスリなどの鳥たちと出会い、心もからだも浄化されていくようなすがすがしさを感じていました。

そのときです。あざやかな赤が見えます。

「アカゲラ?」「アカゲラだ!!」

思いもよらなかった出会いに興奮をおさえきれず、顔はニンマリ。しばしの出会いを堪能し、石神池に到着する頃にはこの里山の自然の深さに感激していました。

石の神と名付けられた池は、古来雨乞いの思いを守り続けているかのごとく、豊かに水をたたえています。静かで穏やかすぎる場所はカモたちには不安らしく一羽もみられないのは残念ですが、「鉄砲」を連想するかれらの生きる知恵と知ると、また自然のおもしろさも増していきます。

しかし、一方では地図にかかれた中勢バイパス計画地が心を暗くします。

そしてテレビから映し出される赤茶けたアブガンの大地が脳裏をかすめ、「あいまいな日本人」また「八百万の神を信仰する日本人」といわれようが、この国の自然のすばらしさを知り、愛する心が「ほんとうの豊かさ」「平和」につながるのではと思う一日でした。

11月11日(日)津神戸地区探鳥会

モズの襲撃

岡崎幸三

左肩に突然衝撃があった。ぶあつい羽音が通り過ぎて影が前方に飛んでいき、左の耳から首筋、肩にかけてほんのりとした温かみが残った。

いったい何が起きたのか理解する前に、前方十メートルほどのところに枝を広げた木、メジロの群にカラ類が加わり、さらに駐車場のもう一方の端から今しがたカラヒワの群が加わってにぎやかにさんざめいていた木が、まるで風船が破裂するかのように爆発した。こんなにたくさんどこにいたのかと思うほどの鳥が、「グルルル」「ブリュリュリュ」と狂気のような声を張り上げていっせいに四方八方へ飛び立ち、それはまさに冬の枯木自体が爆発したかのような光景だった。

爆発の内部から一羽の鳥がまっしぐらに右手のほうに飛び出していき、これが

モズの襲撃によるものだということがようやく理解できた。空からの攻撃者は、早めに攻撃意図を悟られぬための工夫をする。空戦記には「太陽を背にして急降下する」という言葉が出てくる。フォークランド紛争でアルゼンチン機は低空を侵入して島の丘陵に身を遮蔽し、狭い湾内に躍り出てイギリス艦隊を爆撃した。このモズも空の攻撃者としての本領を発揮し、ぼくの背中を遮蔽物として攻撃コースを選んだのである。結局、モズに獲られた鳥はなかったわけだが、彼らが上げた叫び声は間違えようのない恐怖の声だった。

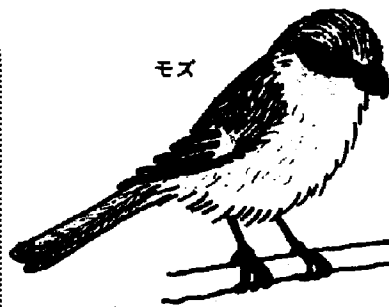
W・H・ハドソン『鳥たちをめぐる冒険』に次のような一節がある。「(ハイタカの)急降下のたびに、小鳥たちからは一斉に恐怖の悲鳴が洩れる。奇妙な声だ。長い生垣中から発せられる幾千という悲鳴は、まるで一つの声のようにきこえる。」

(講談社学術文庫)

冬の朝、多度神社での出来事だった。

冬の鳥(鴛鴦)
 冬鳥も南なぞえの木立好き
 鴛鴦の隠れ住み家を遠くより
 碧天に鴛三声残し翔つ
 鳴き交わし藪くぐりゆく頭高
 揺れ枝に無理やり止まる寒鴉かな
 情けなや葉莢散らばる鴨の池
 紅猿子枝移りゆく群れ仲間

坂口
草人



モズ

みむ一の中国通信（４）

三村 祥子

新年明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひいたします。今年は何んすべき『初 在中国過新年快樂』でした。上海の外灘でも大きな花火が打ち上げられてみむ一たちもカウントダウンをしてきました！しかし中国は旧正月のため、クリスマスの飾りがまだ残っていてちょっと年が明けた気がしていません。

11月に両親と上海動物園に行つて来ました。タクシーで行つたのですがそのタクシーの運転手さんがひっきりなしに「どうして上海動物園に行くの!?上海野生動物園のほうが絶対いいのに。」と言うのです。私が、親がここに行きたいからだ。と何度言つても「野生動物園の方が良い」の一点張り。最終的には「分かつた。(かなりしぶしぶと)じゃあ門の前で待つてあげるからちょっと見てつまらなかつたらすぐ野生動物園に連れつてあげる」と言つていただきましたが丁重にお断りいたしました。今回の上海動物園は以前祖父の植えた木を見るという理由があつたからですが、次回は是非野生動物園にも行つてみたいですね。

そして今回の目的地、上海動物園ですが市内の小規模な動物園だと思つていたら一日は遊べる広大な動物園でした。入り口に8羽のタンチョウヅルの大きなディスプレイがありました。入場料は一人15元。園内の中心、広場では普段寮や大学内では見られないハトがたくさんいました。浅草観音や大須観音同様、ハトのえさ(とうもろこしだつた)が売られていて子供達が撒くとドバト、スズメがいつせいに寄つてきます。ドバトは日本のより大きく(ふとりすぎ?)スズメは同じ大きさでした。人口の池には日本では珍しいアカツクシガモもいました。飛ばないとか飛べないところを見ると羽を切られていたのかもしれない。オオハクチョウもいました。中国語で『大天[我鳥]』と書きます。『天[我鳥]』で『ハクチョウ』。『[我鳥]』で『ガチョウ』。当然、『小+天[我鳥]』で『コハクチョウ』が出来上がるわけです。園内を歩いている時見かけた尻尾の長い鳥はオナガでした。日本では留鳥として中部地方より東の本州に分布。公園の木立で繁殖し、小さな群れで行動すると図鑑に書いてありますがまさにその通りでした。

この目玉は二匹のパンダです。日本で大人気のパンダはここ中国でも大人気でした！子供達のはしゃぎようはパンダの人気さを物語っています。二匹のパンダに人がガラスに張り付けて見ている光景はほほえましく感じました。そして、トラ(東北トラ、華南トラなど)は四つほどのエリアに分かれていて、数もけっこういました。まるでサル山だなあ…。なんて思つてしまいました。(実際、造りもサル山っぽい)

サルと言へば西遊記の主人公のモデルといわれた『金糸猴』もいました。絶滅危惧種として扱われていましたがコンクリートと鉄の檻でかわいそうでした。日本の動物園もそうですが動物達を捕らえ、自由を奪うのならせめて自然と同じ土の上で育てて欲しいと思うのは私だけでしょうか。

ついでに…

市内で鳥を見る機会は何んにもありません。かわい子には旅をさせよ。と言いますが、せつかく大学内にも公園並みの森林があるんだからちょっと遠出してみんな来たらいいのに！！と思つてしまいました。カラスもいないんですよ、ここ。



<アカツクシガモ>

● 青山高原探鳥会 (大山田村)

日 時：6月10日(日) 9:30~12:30

担 当：平井正志・斎藤加代子

参加者：18名 (会員)

観察種：ヒトトリ、ホジロ、セグロセキレイ、メジロ、オカリ、セキレイ、カラビロ、キジバト、ハシボロガラス、ツバメ、
(シ) 以上視認、朴トリス、ミサザイ、アケラ、ツツトリ、カッコウ、イカル、ヤブサメ、ウグイス、シジュウカラ、コケラ、カス、ウツチヨウ (以上声のみ)

計 12種

コメント

見えた鳥は少なかったが、広葉樹の山のすばらしさを知ってもらった。言い換えればスギの植林地の貧弱さが理解されたと思う。

環境変化や問題

向かいの山の広葉樹が切られ、植林の準備がされている。ウツチヨウのさえずりが聞こえたのは衝撃である。

瀬戸林道が観光目的に拡張されるとの新聞報道がその後あった。問題である。

● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日 時：10月28日(日) 9:00~12:00

担 当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：14名

観察種：スズメ、コガモ、コリカモ、ハシボロガラス、モズ、キジバト、ジョウビタビ、コサギ、ゴイサギ、ハクセキレイ、イソギ、カツブリ、カウ、カルガモ、クサギ、ハイロチュウビ、ノスリ、タゲリ、ヒバリ、アオアシギ、ダイサギ、アオサギ、セキレイ、カセミ、カラビロ、ムクドリ、ミサゴ、チョウゲンボウ、バン、メジロ、ツバメ、ハシボロガラス、ヒタビ、セッカ、ヒトトリ、ウグイス

計 36種

コメント

遠くからではあったが、冬の訪れを告げるハイロチュウビに会うことができた。

環境変化や問題

木曾岬干拓地開発のアセスメントの方法書の縦覧が11月1日から行われる。

● ブロック探鳥会 (局ヶ岳登山道)

日 時：11月18日(日) 10:00~13:00

担 当：西村四郎・中村洋子

参加者：13名 (会員12名 非会員1名)

観察種：ハシボロガラス、ホジロ、ジョウビタビ、

ヒトトリ、モズ、トビ、シジュウカラ、メジロ、ウグイス、イガ、ヤイロヨウ(S)、ヤマガラ、アオジ、コケラ、キジバト

計 15種

コメント

林道が工事中なのと風が強かったので、鳥が少なかった。

● 木曾岬干拓地探鳥会 (木曾岬町)

日 時：11月25日(日) 9:00~12:00

担 当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：13名

観察種：コリカモ、スズメ、コガモ、ミサゴ、カウ、ジョウビタビ、トビ、ハクセキレイ、イソギ、モズ、カツブリ、オヨシガモ、ホシジロ、ダイサギ、キンクロハジロ、ヒバリ、チュウビ、ヒバリ、アオジ、キジ、クサギ、アオアシギ、オジュリン、ケアシソリ、ハイロチュウビ、ノスリ、タゲリ、タジギ、トバト、キジバト、カルガモ、アオサギ、コサギ、ウグイス、ムクドリ、ケリ、ツグミ、セッカ、カラビロ、ヒトトリ、ホジロ、チョウゲンボウ、ハシボロガラス、ハシボロガラス

計 44種

コメント

ケアシソリのホリリングを見ることができた。第二名神の通る葦原の上空を飛び、大変貴重な自然を形成していると言える。

● 真泥池探鳥会 (大山田村)

日 時：11月25日(日) 9:30~14:00

担 当：前沢昭彦・塗矢博一

参加者：20名 (会員12名 非会員8名)

観察種：ノスリ、チョウゲンボウ、イカルトリ、タゲリ、ヒバリ、アオサギ、セキレイ、セグロセキレイ、ホジロ、スズメ、カウ、コサギ、メジロ、ハシボロガラス、ハシボロガラス、ヒトトリ、トビ、イガ、アケラ、コケラ、カルガモ、マガモ、ツグミ、アトリ、モズ、ケリ、キジバト、ヒトリガモ、ジョウビタビ、ダイサギ、アオジ、ヤマガラ、シジュウカラ、タカSP、カツブリ、ウグイス

計 36種

コメント

ノスリが初めて移動した時に見つけ、かなり長く特徴を見られてとてもよかった。

環境変化や問題

池の方のカモが少なく他に移動している。ボートの入り口をフェンスでふさいでいたが、フェンスの取り付けが遅いためカモ類の入り方が少ない。

探鳥会

● 県民の森探鳥会（四日市市）

日時：11月25日（日）9:30～12:10

担当：矢田栄史・高和義

参加者：30名（会員）

観察種：ヒヨドリ、メジロ、ハシブトガラス、ジョウビタキ、カワセミ、コガラ、アカガラ、ミヤマホジロ、イガ、ホジロ、シジュウカラ、アバト、ビンズイ、コジュケイ、モズ
計 16種

コメント

県民の森管理事務所との共催は当初からの予定どおりであるが、当方の知らないあいだに菰野町の生涯学習グループであるかもしれなライフカレッジの人にもこの探鳥会の案内が広報されていてここから11名の参加があった。

全体では探鳥会の参加者が14名と約半分、テーマはこの最初の一步に入ってきた人をどうフォローするかだと思ふ。

理想は定例探鳥会だが実施となると二の足を踏んでしまう。

● 斎宮池探鳥会（伊勢市）

日時：12月1日（土）9:00～11:30

担当：西村泉・山田昭子

参加者：8名（会員）

観察種：オオカ、キンクロハジロ、カモSP、アオサギ、カイツブリ、メジロ、ヒヨドリ、ミヤマホジロ、シハラ、ウグイス、ノスリ、ビンズイ、キジバト、ホジロ、アオジ、カウ、ツグミ、ハシボリガラス、ハシブトガラス
計 19種

コメント

しょっぱなからオオタカが現れた。真近で観察でき、観察者を魅了した。

環境変化や問題

斎宮池手前の田んぼをつぶしてゴミ処分場が建設されている。

● 海蔵川探鳥会（四日市市）

日時：12月12日（水）10:00～12:00

担当：尾畑玲子・高和義

参加者：14名（会員11名 非会員3名）

観察種：カイツブリ、バン、カウ、カルガモ、カシドドリ、ケリ、アオサギ、ダイサギ、セグロセキレイ、ハセキレイ、セキレイ、タシギ、カセミ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、ホジロ、アオジ、カワセミ、カシラガ、ツグミ、ジョウビタキ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハシボリガラス、ハシブトガラス、アイガモ、トバト
計 30種

コメント

初参加者がいたのに、「鳥合わせ」の説明をせず、とまどわせてしまった。失敗して初めて気付くなんて。毎度ながら残念。

環境変化や問題

前日や当日早朝の厳しい寒気はすっかり消え失せ、風もなくポカポカの探鳥日和。陽気にさそわれて鳥もたくさん出てくれた。橋の付け替え工事が始まっているはずであったが、予定が遅れているらしく未着工でこれまた平和な半日であった。

● 木曾岬干拓地探鳥会（木曾岬町）

日時：12月23日（日）9:00～12:00

担当：村田芳雄・近藤義孝

参加者：18名

観察種：ノスリ、キジバト、ジョウビタキ、キンクロハジロ、カイツブリ、カルガモ、アオサギ、ヒヨドリ、キジ、アオジ、ウグイス、ムクドリ、オオカ、ホシホジロ、モズ、カウ、ハセキレイ、ハイロチュウビ、オオカ、オジュリン、シジュウカラ、ヒバリ、タヒバリ、トビ、クサシギ、チョウゲンボウ、コサギ、カワセミ、ツグミ、ケリ、タシギ、ダイサギ、ハタカ、コミミズク、ミサゴ、ホジロ、カセミ、バン、セッカ、ユリカモメ、トバト、スズメ、カルガモ、メジロ、ハシボリガラス、ハシブトガラス、イソシギ、ウミネコ
計 48種

コメント

天気が良かったのかコミミズクが2羽空高く舞い上がり白い羽根をひらひらさせて飛んでいた。

● 員弁川探鳥会（員弁町）

日時：12月8日（土）9:30～12:00

担当：近藤義孝・村田芳雄

参加者：10名（会員）

観察種：カウ、セグロセキレイ、ウグイス、アオサギ、カシドドリ、チョウゲンボウ、クサシギ、アオジ、ハシボリガラス、ムクドリ、ヒヨドリ、ホジロ、セキレイ、モズ、キジバト、シメ、スズメ、ダイサギ、ハシブトガラス、トバト、ハセキレイ、カシラガ、カワセミ、ケリ、ジョウビタキ、イソシギ、ツグミ、ヒバリ、ツミ、オオカ
計 30種

コメント

気温は低かったが、風がなく、日差しが暖かかった。ツミ、チョウゲンボウ、オオカが現れ、皆を楽しませてくれた。集合場所がわかり難く、案内の記載方法を検討しなければならないと感じた。

◇ お知らせとお願い ◇

- ・今月から、[支部だより]を設けました。事務局から支部に関する活動を会員にお知らせすることを目的としています。
- ・「私の一番鳥」コーナーは都合により今回はお休みします。
- ・お願い

支部から会員の方々に連絡や依頼をしておりますが、そのたびに通信費が発生するためお伝えする内容・回数が限られてしまいます。対策としてeメールでの伝達も考えております。eメールでも良いという会員がおられましたら、伝達方法の一部に加えることを検討したいと思いますので、意見をお寄せ下さい。<[メールで了承]だけでも結構です>

宛先は 三村 通雄 宛 お願いします。

「しろちどり」の原稿の宛先は・・・・・・・・

(イラスト・表紙絵も大募集)

〒

三村 通雄 宛 お願いします。

Tn (FAX)

e-mail

33号の訂正

11 ページ 海蔵川探鳥会のなかで、実施日9月23日(日)、担当者：村田芳雄・近藤義孝、参加者人数23名は実施日10月3日(水)、担当者：尾畑玲子・高和義、参加者9名の間違いでした。お詫びして訂正します。

2001～2002年度支部役員改選のお知らせの中で、尾畑玲子さんが今期退任された役員から漏れておりましたので、お知らせします。

編集後記

2002年初めてのしろちどりです。今回の特集は身近なバードウォッチングとして日常生活での鳥との関わりをご紹介します。皆さんの鳥たちに対する愛情が伝わってきました。

我が家の庭先からもジョウビタキ、シロハラなど観察できます。南天の中をウグイス、メジロが見え隠れしています。

テロに明け暮れた昨年と決別して人にも鳥にもやさしい自然であってほしいと思います。

A・M

しろちどり 第34号 2002年2月発行

題 字 濱田 稔
表紙絵 田中 豊成
挿 絵 平井 正志・田中伸一
編 集 三村 通雄

発行者 (財)日本野鳥の会 三重県支部
〒516-0026 伊勢市浦田2丁目9-4
杉浦 邦彦方
印 刷 館 印刷
〒510-1321 三重郡菟野町田口1903-3

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。●